

# インマヌエル中目黒キリスト教会

## 5月13日 第二礼拝

---

創世シリーズ

「結婚の奥義」

創世記

2章18節～25節

梅田昇牧師

# 聖書朗読 旧約聖書

## 創世記

### 2章18節～25節

聖書本文は新改訳2017

( ©新日本聖書刊行会 ) を使用しています

第二版の聖書は 3 ページ

第三版の聖書は 3 ページ

2017の聖書は 3 ページ

- 18 また、神である主は言われた。「人がひとりであるのは良くない。わたしは人のために、ふさわしい助け手を造ろう。」
- 19 神である主は、その土地の土で、あらゆる野の獣とあらゆる空の鳥を形造って、人のところに連れて来られた。人がそれを何と呼ぶかをご覧になるためであった。人がそれを呼ぶと、何であれ、それがその生き物の名となった。

20 人はすべての家畜、空の鳥、すべての野の獣に名をつけた。しかし、アダムには、ふさわしい助け手が見つからなかった。

21 神である主は、深い眠りを人に下された。それで、人は眠った。主は彼のあばら骨の一つを取り、そのところを肉でふさがれた。

22 神である主は、人から取ったあばら骨を一人の女に造り上げ、人のところに連れて来られた。

23 人は言った。「これこそ、ついに私の骨からの骨、私の肉からの肉。これを女と名づけよう。男から取られたのだから。」

24 それゆえ、男は父と母を離れ、その妻と結ばれ、ふたりは一体となるのである。

25 そのとき、人とその妻はふたりとも裸であったが、恥ずかしいとは思わなかった。

# 説教

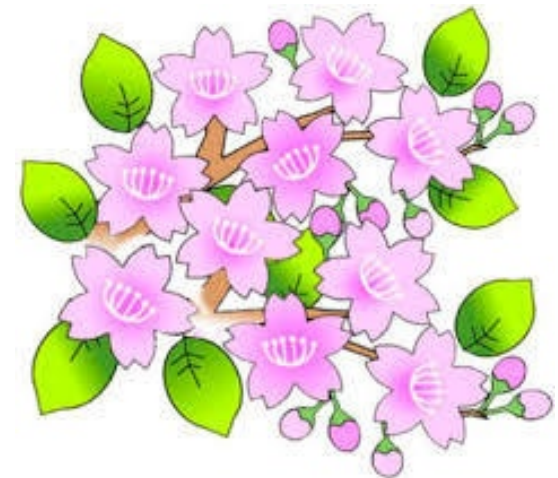
創世シリーズ

「結婚の奥義」

創世記

2章18節～25節

梅田昇牧師



< 母の日に関して >

母親の愛と犠牲に対して  
感謝を表わそう

# < 創世記2章に見る神様の贈り物 >

「神が人間に与えられたものが6つ」

P.ウィルクス

- 1 . 靈的いのち ( 7 節 )
- 2 . 生活する場所 ( 8 - 14 節 )
- 3 . 人間になすべき使命 ( 15 節 )
- 4 . 選択の自由 ( 16 - 17 節 )
- 5 . 理解力、判断力 ( 19 節 )
- 6 . 配偶者 ( 20 ~ 23 節 )

聖書を通して、結婚の奥義、  
あり方について明らかにされている





# ・結婚の起源

第一に、結婚の起源がどこにあるか。

18節：「また、神である主は言われた。

『人がひとりでいるのは良くない。

わたしは人のために、ふさわしい助け手を造ろう。』



## ・結婚の奥義

第二に、配偶者をどう理解するか。

A．神様からの賜物（18節）

B．人格的交わり（18節）

C．助け手、パートナー（18節）

# ・結婚の標準

第三に、結婚はどうあるべきか。

エペソ人への手紙5章31～33節参照

A．離別（24節）

B．愛（24節）

C．一致（24節）

D．信頼（25節）



## 終わりに（結論）

「結婚の奥義」という題で、みことばを語った。

1．結婚制度は、神様によって定められた。

2．配偶者は、神様からの賜物、パートナーである。

3．結婚を正しく理解しつつ、神様に祝された結婚生活を送れるように、主を見上げつつ生活を送ろう。